



## いま、倉橋と出会う

倉橋惣三（一八八二—一九五五）は子ども・保育研究の先駆者であり、日本の就学前教育における遊び児童中心主義を確立したといわれる。主著書に『幼稚園雑草』『就学前の教育』『幼稚園真諦』『子供讃歌』などがある。大正期から戦後にかけて、本誌の編集主幹を長く務めた。没後五十五年を迎える今年、特集「いま、倉橋と出会う」を企画した。倉橋の珠玉の言葉や一節を手がかりに、身近な保育実践を振り返り、現代の保育観を問い直す機会にしたい。倉橋と同時代に生きた研究者、保育者へのインタビューも紹介する。

何たる縁か。こうして親しく、あなたの為には大切な幾とせを、日々にいっしょに楽しみ得たことか。

「教育」。そんなことよりも、あなたを迎える朝な朝なが私の楽しみでした。「あなたの為」。

そんなことよりも、あなたといっしょに遊ぶことが私の喜びでした。  
ただね、今になって考えてみると、随分行き届かないことが多かったと、それが、すまないのですよ。けれどね、御免なさいなんて、そんなことは決していけませんよ。私の足りないことを、あなたは何とも思ったりしていないと、それが、しつかり、私に分かつているから——。若しそうでなかったら、こんなに、にこにここと、あなたの修了をお送り出来るものですか。

「いい先生」、そんなこと、どうでもいいのね。あなたのすきな先生だったのですものね。  
ほんとに、そうだったんですね。